

# 診療科紹介 : 救急科「救急初期診療とは？」

皆様こんにちは。今回は私たち救急科(専任:佐々木俊哉医師、加藤俊哉医師)の紹介をいたします。救急科は、当院救命救急センターとともに救急医療を担う診療科です。救急病院として地域の救急医療を支えることは当院の重要な役割の一つで、これまでも救命救急センターを中心に(旧)総合診療科および院内各科が協力して貢献してまいりました。このたび救急機能をより明確にし、皆様からより分かりやすいものとするために、今年4月、総合診療科を廃止し、救急科としてスタートいたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

突然体の調子が悪くなった方や、けがをされた方など多くの救急患者さんが救急外来にみえます。救急車で搬送されてくる場合が多いですが、直接、来院される方もみえます。当院の救急車搬送数は、年間約5,700件で、これは浜松市全体の搬送数の約4分の1に相当し、年々増加しています。救急外来でこれらの救急患者さんに初めに対応するのが私たちです。急病やけがなどの状態に応じて、救急外来で可能な応急処置を施し、院内外の適切な専門科・病院を紹介します。8~9割の患者さんはこれで帰宅いたします。しかし、残りの方々には、呼吸(息をして酸素を取り込む働き)や循環(心臓が動き、血液の流れを維持する働き)という生命維持のための最も基本的な機能が不安定な患者さんがみえます。喘息、心臓発作、脳卒中の患者さん、けがで大出血をしている患者さんなどがその例です。このような患者さんには早く対応しないといずれ心肺停止(心臓や呼吸が止まること)にまで至る危険があります。救急外来で診断をすすめ適切な専門科との連携を行う一方で、呼吸や循環の状態を最優先に安定化させることは、私たちの重要な仕事の一つです。救急外来に大勢の患者さんがみえますと、呼吸や循環の不安定な患者さんから優先的に診察しなければならない場合があります(これを「トリアージ」といいます)。このような救急外来での私たちの診療形態は、「救急初期診療」と呼ばれています。皆さまのご理解をよろしくお願いいたします。



# ふれあい



当院は、災害拠点病院、また広域救急医療を支える病院として、ドクターヘリによる患者受け入れを行っています。

この他、災害医療や救急医学教育にも取り組んでいます。当院ホームページの診療科のご紹介「救急科」(<http://www.hmedc.or.jp/guide/department/dep001.php>)を是非ご覧下さい。  
(文責:救急科長 佐々木俊哉)

《編集後記》 夏ですね、冷たいジュースやアイスが美味しい季節ですが、夏こそしっかりと食事をとることが大切です。  
夏バテ防止メニューをホームページに掲載しました。参考にしていただき、元気に夏を乗り切りましょう。 発行:広報委員会  
〒432-8580 浜松市中区富塚町 328  
TEL 053(453)7111 : FAX 053(452)9217  
URL <http://www.hmedc.or.jp> : E-Mail [koho@hmedc.or.jp](mailto:koho@hmedc.or.jp)

目次  
総合相談支援室  
夏バテ予防の栄養学  
==夏バテはなぜおこる? ==  
院外処方せん発行の推進について  
市民公開講座「よくわかる!胃がん」  
診療科紹介:救急科「救急初期診療とは?」  
編集後記:夏ですね



~ 自由に お持ち下さい ~

## 総合相談支援室：

総合相談室は、多様化する患者の皆様のあらゆる相談に素早く対応するため本年7月に改称し、総合相談支援室として新たに誕生します。当室は2部門に別れています。まず医療福祉相談担当（ソーシャルワーカー）が、医療費や退院、転院の支援、介護保険やその他の公的支援サービスについて、皆様のお手伝いをいたします。

病気についてのご相談、特にがんに関する不安や疑問、悩みに対しては専任の相談員（看護師＋事務員）が担当いたします。相談員は、電話や面談によりがんやそれ以外の病気の相談を受けたり、地域の医療機関のご紹介、セカンドオピニオンへの対応、さらにはがん診療連携拠点病院の役割として、緩和ケアのお手伝いやがん情報の発信などを行います。また、皆様のいろいろなご意見や苦情に対しても真摯に対応いたします。

現在、耐震工事のため2号館2階の「相談室」に仮住まいしていますが、今年の秋頃までには1階の玄関付近に医療連携室と一体となった医療連携・患者支援センターとして活動する予定です。相談用の個室も準備し、また、がん関連の図書・冊子・パンフレットの展示も行います。当室は、医師、薬剤師、療法士、栄養士等の専門職とも連携しながら患者の皆様及びご家族の問題解決のためのサポートをいたしますので、お気軽にご利用下さい。

### 夏バテ予防の栄養学

== 夏バテはなぜおこる？ ==

夏になるとこんなこと、思いあたりませんか？

ジュースや炭酸飲料などをたくさん飲む

アイスクリームやシャーベットなどを良く食べる

そうめんなどのめん類やおにぎりだけの食事に偏る

このようなことが続くと食欲は益々低下し、疲労を感じるようになります。これは の食品に含まれる糖分により、血糖値が一定に保たれるため食欲が湧かず、また胃液の分泌も不十分となるためです。穀類や砂糖などに含まれる糖分をエネルギーに変える際にビタミンB1が余分に消費されて、不足となり、からだは余計に、だるさや疲労を感じるようになるのです。

### 予防のための栄養素 元気の基ビタミンB群！！

微量栄養素であるビタミンB群は胚芽精米や全粒粉パン、豚肉、魚、大豆、牛乳、卵などにも多く含まれています。

ビタミン（C・E）ミネラル（カルシウム、鉄、亜鉛など）などにも予防の効果があります。葱、みょうが、青じそなどを使った料理や柑橘系の酸味は、食欲中枢を刺激して胃液の分泌を促します。



栄養科のHP夏のメニューを

参考にして夏を元気にのりきりましょう。

## 院外処方せん発行の推進について

当院では、厚生労働省の指導による「医薬分業の推進」を図るため、院外処方せんの発行を積極的に推進しているところですが、平成20年5月1日からより医薬分業を推進するため、外来患者への処方原則「院外処方せん」を発行することといたしました。皆様のご理解とご協力をお願いします。

なお、院外処方せんの有効期限は、発行日を含めて4日間です。ご注意ください。

### 〈 医薬分業の推進 〉

院外薬局では、患者が使用した薬の管理を行い、過去のアレルギー歴や副作用歴の把握、また病院と診療所などとの重複投与チェックを行い、より専門的な指導により安心して薬を服用することができます。

## 市民公開講座「よくわかる！胃がん」開催

第5回 市民公開講座を開催します。今回のテーマは「胃がん」です。当院消化器科医、外科医が「胃がん」の総論から、外科的な治療方法や内視鏡を使用した治療方法などについてお話をいたします。また、当院名誉院長（内村クリニック院長）内村 正幸が「知っておこう、胃切除後に起きる後遺症とその対策」と題して講演いたします。

是非、ご参加ください。（詳細は8月中旬、当院ホームページに掲載予定です。）

日 時	平成20年10月4日（土） 14:00～
場 所	アクトシティ浜松コングレスセンター31会議室
定 員	330名（入場無料：直接会場にお越しください）

